

## 令和2年度 2学期終業式 校長式辞

<2020. 12. 23>

今日で9月1日からの2学期が終了します。

コロナ渦の影響で、いくつかの行事の中止や縮小を余儀なくされましたが、それでも、体育祭・スピーチコンテスト・遠足・山口への研修旅行など実施できた行事もありました。また、部活動においても柔道・新体操・陸上・空手・野球部、そしてオーケストラ部の大会が無事に開催され、そして好成績をおさめました。

「できなかった事」よりも「できた事！」に対して、有難いと感謝の気持ちをしっかり持ちたいと思います。

冬休みを迎えるにあたって二つ程 お話し・お願いをしておきます。

ひとつめ・・・

「どうぞ限界を自分で決めないで欲しい！」という事です。以前、合同朝礼の一言でも少し触れましたが、偏差値30だった“ビリギャルの小林さやかさん”は、わずか1年半で偏差値を40上げて見事、慶応大学に現役合格しました。

世間の方は、「さやかは元々頭がよかったんだ」って言うけれど、決してそうじゃない。塾の先生（坪田先生）との出会いがあり、自分で無理だと決めず「やってみなきゃわかんないっしょ！」と言い聞かせ、ワクワクすることに挑戦した結果 が合格に繋がった・・・んだと、彼女は、はっきり言っております。

3年生の皆さんは1ヶ月後には、初めての経験・・・高校入試・受験が控えています。

小林さやかさんの言葉を借りれば・・・「死ぬ気で何かを頑張るって意外といいもんだ。そこから自分の人生が音をたてて広がっていくんだ。」

どうか、勉強も含め すべてのことの**限界を自分で決めてしまわない様**にお願いします。頼みます。

ふたつめ・・・ (ちょっと式辞には相応しくないかもですが、聞いてください)

昨日、朝、登校して正門くぐりますと数名の小学生が集まっていた。どうしたの？と尋ねたら、なんと犬の排泄物“うんち”が5・6個ポツリポツリと並んで落ちてました。すぐさま中学校舎に行き、毎朝掃き掃除をしている3年生のF君にその事実を伝えました。すると彼は、ほうきとテミ（大きなチリトリ）を持って、黙って正門に向かいました。そして汚いとも臭いとも言わず、黙々とその排泄物を拾い集め、見事に回収してくれました。これも以前お話ししましたが、F君は合同朝礼後校長室にきて、宮澤賢治の「雨にもまけず」の詩を毎朝復唱しています。

その中に 「東に病気の子供あれば行って看病・・・西に疲れた母あれば稲束を背負い・・・南に死にそうな人あれば行って・・・北に喧嘩や訴訟あれば やめる・・・」

の件(くだり)があります。

昨日のF君の行動は、「**正門に“うんち”あれば 行って 回収し!**」・・・と、

見事な あざやかな 立派な 社会貢献活動!でした。

さあ・・・ここで皆さんに考えて欲しいこと、感じて欲しいことは・・・

行動に移すことは、真に大変です! でも、即実行! 実際にやってみれば

なーんだこんな容易たやすい事なんだと感じるはずですよ。

東に、西に、南に、北に・・・と4方向に動け!とは言いません。

でもせめて、1方向ぐらいには、しっかりと興味・関心をしめし、一隅いちくうを照らす社会貢献活動・・・のできる大人(ヒト)になってください。

どうぞ、明日からの冬休み、ONとOFFの めりはりをしっかり持ち、くれぐれも「感染症対策」そして健康に留意し、1月8日元気な姿を見せてください。2学期、皆さん、本当によく頑張りました。

以上で、2学期締めくくりの学校長の言葉といたします。